

「うっはうっしてなおす

—何で困っているかが一番大事なこと—

話し手・小原 基郎 さん

(精神科医師)

越谷市中央市民会館 5階 第7会議室

4月26日(木)18:30~21:00



このべんきょう会は、障害者が地域で働くというテーマをきっかけにしながら、障害のない人の働き方や暮らし方を含めて、フリーに語り合おうという会です。1回、1回、話し手をお願いし、そのお話を口火にしておしゃべりしますので、初めての方でもどうぞおいで下さい。

今回は、精神科医師の小原基郎さんです。長年、街の精神科クリニックや病院、さらには職場のメンタルヘルス嘱託医として働いて来られました。

終了後お時間のある方は、近くのファミレスで、おしゃべりの続きを楽しみましょう。



越谷市中央市民会館

5階 会議室

会費:200円(資料代)

NPO法人障害者の職場参加をすすめる会

048-964-1819 (職場参加ビューロー世一緒)

第45回 共に働くまちを拓くべんきょう会



第45回 共に働くまちを拓くべんきょう会



第45回

うつはうつしてなおす

―何で困っているかがいちばん大事なこと

話し手

小原 基郎 さん

(精神科医師)

話し手は、長年、街の精神科クリニックや病院、さらには職場のメンタルヘルス嘱託医として働いて来られた医師・小原基郎さんです。

前に別の場所で小原さんはこう語られています。
「私はやっぱり診療所で患者さんの話を聞いて患者さんの何が今問題になっているかを医者が把握して、それを患者さんに『こういう点で困っているんですね、辛いんですね。』ということを分かるというのが一番大事だと思っています。分からないまま症状だけ回復していても、患者さんにとっては空しいだろうし、こちらもそれだけのことしかやっていないなど。だから、この患者さんは何で一番困っているんだろうなということをしっかりとつかまえておくことが大事だと思いますし。ただ、それは言う程にはきちんとできていないかもしれませんけれども。」

職場の「うつ」が拡がっている背景を小原さんは次のように描かれています。
「サービス残業当たり前、月一〇〇時間超勤当たり前 ぼろぼろになったらぼろ雑巾のように捨てられる、労働組合の弱体化 ↓↓ 自分で身を守ることができない！」

「親と上司は変えられない」「部下にあたり感情のはけ口とする上司」「適応障害という病名自体に問題性があり、職場ストレス反応というべき」
上に対してたたかうことができないぶん、はけ口を下へ求めるといった連鎖が重なり、その重層的な矛盾を背負わされた者は、自分がしっかりしていないからこんな目にあってしまうのだと自分を責める。そんな状況にどこから斬りこんでいったらいいかと、小原さんに質問してみました。

小原さんの答は、「うつはうつして治す」。自分だけで抱え込まず、周りにしゃべりまくる。うつを感染させれば、自分だけが目立つこともなくなる。感染す！そして移す。一つの世界に自分を閉じ込めず、いろんな世界をもつこと。感染と移動がしやすいような環境をどうつくるかということがポイントのようです。

「うつはうつして治す」これは小原さんの昔からの持論だそうです。

4月26日(木)18:30～

越谷市中央市民会館
5階 会議室

会費:200円(資料代)

(終了後、時間のある方はファミレスでおしゃべりしましょう)

NPO法人障害者の職場参加をすすめる会

048-964-1819

職場参加ビューロー一世一緒